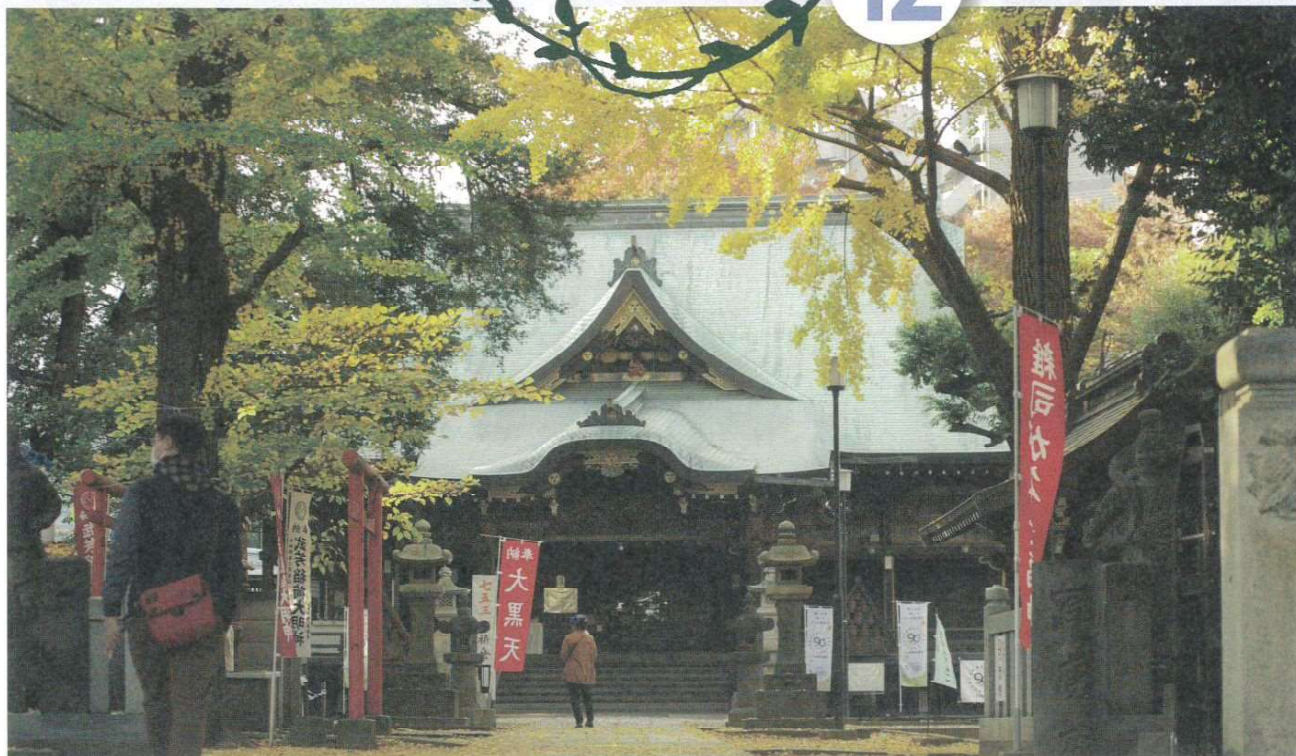


〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
発行人 山崎 哲
編集長 仲井 真裕
印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



大悲に生きる人とあう
願いに生きる人となる



雑司ヶ谷 鬼子母神堂

西徳寺の予定

12月

- 7日(水) 午後7時半 燈虹塾セミナー
11日(日) 午後1時 帰命法会
～関東大震災百回忌を機縁として～ 第二回
14日(水) 午後1時半 婦人会聞法会
17日(土) 午後2時 定例聞法会
23日(金) 午後3時 総代会
31日(土) 午後3時 歳暮法要

1月

- 1日(日) 午前7時 修正会
21日(土) 午後2時 定例聞法会
22日(日) 午前11時 婦人会新年会
28日(土) 午後5時半 同行会新年会

※コロナ禍でありますので、予定は変更することがあります。
詳しくは寺務所までお問合せください。



住職の一言

犬が西向きや尾は東

「当たり前」をことさらに表す慣用句。言うに及ば・・・

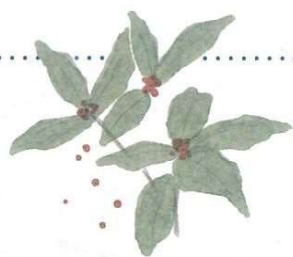
「生まれた者は必ず死に帰す」も当たり前。だけど、本当に受け取り切れているだろうか？

もし受け取りきれぬなら、それは他人事なのかもしれない。

愛する人、そして自分自身となると難しい。尾が東を向かない日々を送っている。



12月の山門の言葉



成り立たない私の信

かつて地下鉄サリン事件で世界中を震撼させたオウム真理教。あれから二十七年が経ち、今度は旧統一教会の騒ぎ。公人の面々が名を連ね、あまりにもお粗末な状況である。この迷いについて親鸞聖人に尋ねてみると、「私がする信心は成り立たない」。「如来より賜りたる仰せをいただくに尽きる」と言い切っておられる。九十年の宗祖の歩みは、根深い自我との厳しい出遇いであった。

八十五歳を迎えられた宗祖のご和讃に、

康元二歳丁巳二月九日夜寅時夢告云

弥陀の本願信すべし

本願信するひとはみな

摂取不捨の利益にて

無上覚をばさとするなり

とあり、たくさんある御和讃の中で唯一、年号・日付・時刻まで詳しく明記されている。それにはよくよくの訳がありになった。この年は、南無阿弥陀仏の云われを曲げて、信仰を立てた長男、善鸞を義絶された年なのである。

賜りたる仰せに尽きるはずが、親子の血を分けた絆、疑う余地のない親子の縁、現実には善鸞を信じる私の信を信心とする。そこに聖人の痛みがあった。実はそれが誰にも共通する迷いであり、根本的な宗教の課題なのである。

今日の社会問題をきっかけに、する信心と賜る信心の違い、また、成り立たない私の信を知らされる。

(大谷義博記)

ランドマーク

雑司ヶ谷 鬼子母神堂

日蓮宗・法明寺の飛地境内に建つ雑司ヶ谷 鬼子母神堂。

現在のお堂は、本殿が寛文4年(1664年)徳川4代将軍家綱の代に建立され、その後、昭和51年から3年間、江戸時代の姿に復する解体復元の大修理が行われました。平成28年に国指定重要文化財になっています。

鬼子母神は安産・子育ての神様として信仰を集め、例年10月16～18日に行なわれる御会式大祭の起点となっています。

「鬼子母神」とは、王舎城の夜叉神の娘、訶梨帝母とよばれ、たいへん暴虐で子どもをつかまえて食べてしまう恐ろしい鬼女でした。そこで釈迦様が訶梨帝母を救うことを考えられました。訶梨帝母ははじめて今までの過ちを悟り、釈迦様に帰依し、その後安産・子育ての神となることを誓い、庶民の信仰を集めました。



うばだいしゃ ～共悩共歩～

テーマ「時代」

優婆提舍(うばだいしゃ)論議の意。
経説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。
(例:浄土論=無量寿経優婆提舍願生偈)

【正しさを自分で見つける時代】

今回は、西徳寺ご門徒で、オーストリア・ウィーンで観光業を営む治田(ヘーグナー)幸子さんにお話を伺います。

◆ウィーンとの出会い

元は私、上野浅草管弦楽団でクラリネットを吹いてたんです。1989年、ウィーンの一つの区と台東区が姉妹都市になって、その表敬訪問の際に、オーケストラを派遣しました。私はその頃は虎ノ門でナースをしていて、外国に興味もなかったんですけど、仲間に誘われて行ったというのが最初だったんですよね。

その時はウィーンに3泊だけしたんですけど、帰りの飛行機で飛び立つ時、不思議と涙が出たんです。それから3、4回ウィーンに行くと、もっと居たいと思っていたら、街の中に日本人のガイドさんがグループを連れて歩いていました。「あ、これだ」と決めて、ドイツ語や歴史の勉強をしに、働きながら大学に通いました。

その大学入学試験の日の夜に、誘われて行ったウィーンフィルのメンバー9人の楽団を囲んだパーティーで、主人(ホルン奏者、ギュンター・ヘーグナー氏・2018年ご逝去)と出会ったんです。

◆日本と海外の違い

日本とは考え方がかなり違いますね。第一に右に倣えじゃないっていうこと。自分の考えで行動するっていう感じですね。人の出方とか見ないで、私がこう思ったらこうだと。日本の常識って外国の常識ではないんだと思いました。ウィーンは地域のコミュニティってのはあんまりないかもしれない。でももっと気さくなんですよ。昔の下町みたいに。すぐ声を掛け合ったり、よく行くカフェのウェイターさんとは、いつも気さ

くに話をしていますよ。

◆右に倣えの危うさ

日本は良くも悪くも島国なんです。周りを海で囲まれているっていうことは、どれだけ安全だったかっていうことです。時代とっていいえ、今までは学校教育にしても、イデオロギーの時代だったと思うんです。正しさを、学校教育から植え付けられてきた。そこにハマらない人は異端として排除していく、そういう時代だったけど、今そのイデオロギーが崩れてきて、グローバルズムから今またナショナリズムの方に方向転換してきているし、EUなんかもね、今グチャグチャになってるし。

自分で考えて取捨選択しなければいけない時代、自分で考えないといけないということなんです。でも自分で情報を取って、真実を知ろうとする人と、対話が成り立たなくなっているんですよ。自分で考えないようになので、テレビで言っていないことを言うと、毛嫌いされる。

今は人々のベースが幸福やよろこびではなくて、不安・恐怖・不信、要するにネガティブなものなんです。そうではなくて、それぞれが自分の幸せを追求する時代だと思っています。

(聞き手 仲井真裕)



治田(ヘーグナー)幸子さんと聞き手

西徳寺報恩講 11月5日(土)・6日(日)

西徳寺報恩講が11月5日(午前午後)6日(午前)に勤まりました。3年ぶりに西徳寺合唱団「エコー」も復活。美しい歌声が堂内に響き渡ります。

布教使は島根県・順念寺の馬場真昭住職(西徳寺OB)をお招きし、阿弥陀如来が救う目当ては、自分の立場や都合を第一にして、そこから一步も抜け出せない私たちであると、教えていただきました。

果たして、目当てになるような私自身に出会っているのだろうか?そう思う時、ご恩に報いる前に、ご恩を報ることが大切なのだと再認識させられます。

布教後、昔を懐かしみ、ご門徒の方々が布教使控室にお越しになる姿がとても印象的な報恩講でした。

山崎 哲 記



馬場真昭師



合唱団「エコー」

せいぼほうよう しゅしょうえ 歳暮法要と修正会のご案内

今年も残すところあとわずかとなりました。皆様にとってどんな1年だったでしょうか。多くの支えによって今年も無事に終えることができることに感謝をし、共に歳暮法要をお勤めしましょう。

また翌日、元旦には修正会をお勤めします。新年も皆様と共にお念仏の教えを聞き開いて参りたいと願っております。どうぞお参りください。

歳暮法要：12月31日(土) 15時から15時半(本堂)

修正会：1月1日(日) 7時から7時半(本堂)

※修正会終了後新年会を開く予定です。

コロナの感染状況によって新年会は中止する可能性があります。

江戸伝統文化推進燈虹塾

認定式のご報告

当塾では江戸文化を精力的に伝える方・芸能を取り上げ、今後ますますのご活躍を応援する取組みを行っており、今年は吉福社中の「吉原狐舞」を認定させていただきました。

狐舞は葛飾北斎が描く浮世絵にも描かれておりましたが、一度その伝統文化は途絶えてしまいました。しかしながら吉福社中の皆様により見事復活し、今現在大変なご活躍をされています。

当日は吉原狐舞とは何かを改めて学び、そして後半は記念公演としてたくさんの方々よりご披露いただき、華やかな時間でありました。

撮影：浮世写真家 喜千也様



城南・中央ブロック会聞法会

10月23日(日)、西徳寺梅檀の間に おきまして、城南ブロック会、中央ブロック会合同聞法会を開催しました。コロナにより参加者が減少してきた中、21名の方に参加いただきました。

今回は「善悪」をテーマに共に学びました。山崎住職は、「私たちの善悪は、その時々 の状況によって変化する。そういう非常に 曖昧な物差しで善悪の判断をしている。阿弥陀さんの光はそのあり方を悪であると照らし出してくださっている」とお話いただきました。

5ブロック聞法会本来の願いである、ブロックを越えての交流が生まれ、とても意義あるものとなりました。

(中央担当：蓮井 邦宗 記)



城北ブロック会聞法会

小雨の降る11月13日(日)、西徳寺・梅檀の間に於きまして、城北ブロック会聞法会を開催いたしました。

今回から新テキスト『苦を解き明かす』に学びます。初回のテーマは「なぜ、人間は生きるのか」。大谷顧問から、「定まらない日常生活の中で、「なぜ生きるのか」という課題が手つかずになっている。自我で片付かないいのちの尊さを、私たちは見失っている。いのちが説かれた釈尊の經典、私たちはいのちの云われを聞くのだ」と教わりました。

参加者から、「私は煩惱でしか生きていない」という言葉が飛び出すなど、非常に尊く、楽しい時間を皆さんと過ごしました。

(仲井 真裕 記)





坊さんのツブヤITTER



@イチー

あと一ヶ月でお正月ですね。

そういえば私が小さかった頃、お正月だけはファミコンとかゲーム機で遊ばずに「かるた」とか「カロム」に夢中だったなあ。

#もう年末だ #日本伝統の遊び #カルタ #カロムは彦根発祥のおもちゃ #アナログ



カロム

えこお志お礼

台東区 森下 幸雄 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。



内愚外賢

～賢者の信を聞きて、
愚禿が心を顕す～

「一本の鉛筆。実はそれを作る全ての工程と方法を知っている人はどこにもいない。木材、また木材を切るノコギリ、芯、消しゴム、金属…これらをどこの誰がどうやって作ったのか。そこには同じ言葉も喋らず、同じ宗教も信じない世界中の多数の人々が、やがては鉛筆になることなど知る由もなく製造し販売した結果なのだ」

ノーベル経済学賞を受賞したアメリカの経済学者ミルトン・フリードマンが講演で度々引用したエッセイ。先日たまたま目にしました。

自由市場経済について、話をされているそうなのですが、この「鉛筆」と「私」は同じではないでしょうか。無数の結びつきによって成り立たしめられ、またその1つとして生きているのでしょうか。

(編集長 仲井 真裕 記)



ふなばしアンデルセン公園の空

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。



saitokuji@ce.wakwak.com



http://saitokuji.tobihiro.jp/



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook

「二代墓地」、各種墓地、受付中。墓石への法名刻みはお問い合わせください。